

平成 24 年 3 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県の主要指標 DI 値（平成 24 年 3 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：5.0% 悪化：51.3% DI 値：▲46.3% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：16.3% 減少：43.8% DI 値：▲27.5% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：11.3% 悪化：50.0% DI 値：▲38.7% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 24 年 3 月末現在）

 30 以上	 10～30 未満	 10 未満～▲10	 ▲10 超～ ▲30 未満	 ▲30 以上
----------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲66.7	▲50.0	▲66.7	▲100.0	▲66.7	▲20.0	▲100.0	▲54.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業	全 体
▲60.0	▲66.7	▲50.0	▲15.4	▲33.3	▲42.9	▲40.4	▲46.3
							

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	ホワイトデーの来店数は前年並みであるが、購入単価が下がっている。	パン・菓子製造業
	2月度は▲9.7%と大幅な前年割れ。降雪日・低温日が多く、山陽方面からの客足が鈍ったことが要因。3月度は3/23時点でほぼ昨年イーブンの推移。3/11第六回：萩の真ふぐ祭りは、12,000人の来客で、こちらは対前年+10%とまずまず。7年前に隣接の公園や当館駐車場外構に植栽した早咲き品種「河津桜」が今週満開になり、NHKの番組でも紹介され、この桜を目的に来館されるお客様も多く、花のチカラ、恐るべし！！	水産食料品製造業 萩市
	資材関係の価格が上がり困っている。価格の転嫁が難しく、今後どの様にコストを抑えていくかが課題だが、難しい。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	テント業界でも燃料費が高くなれば、材料関係も高くなるので心配。	帆布製品製造業
	3月は見込み生産をしたため、予想通り在庫増となった。4月には商品引取ができ、在庫は正常に戻ると思われる。しかし、消費が相変わらず低調なため、衣料品の国内生産は回復が望めない。低価格ものが主流で、海外生産にキャパを移すしか望みをつなぐことができない状況。4月以降はとりあえず3ヶ月の期限をきって、操業を一部短縮し、その後は受注状況をみて判断をすることにする。	下着類製造業
	2月には3月分の受注状況は厳しいと予想していたが、現在は4月分まで受注ができています。うれしい反面、連休明けが不安。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	住宅関連需要が思ったほど回復せず、苦しい経営状況が続いている。	製材業・木製品製造業
印刷	中国地区最大手の印刷会社が経営権を県外業者に譲渡（新聞報道）。山口県の印刷業界に波紋を起こしている。印刷業界のみならず、県内産業界への影響を危惧している。	印刷
	繁忙期の年度末も相変わらず受注が少なく、新年度の仕事も激化する見積み合わせの中で、取っても取らなくても自分で自分の首を絞める状況。	
窯業・土石製品	当初見込みは上回りつつ推移するものの前年比94パーセント。地区ごとの出荷状況は2地域で前年比を上回った。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。価格も安定して推移してい	生コンクリート製造業

	る。	
	出荷量は、対前年比で骨材：81% 路盤材：83% 再生材：54% 全体では、対前年同月比：76%。	砕石製造業
一般機器	円高・ドル安、円高・ユーロ安ともに若干の振れ戻しがあり、輸出においては好材料となっている。タイの水害被害も一服し、生産が回復して来ている。特に自動車及び機械については設備関係の受注量も増えている。但し、中国経済の足踏みが顕著となっており、今後の動向を注視している。	一般機械器具製造業 柳井市
	3月の業況は、一部企業においては韓国からの受注があり、今後夏場にかけて操業が増加する予定である。	一般機械器具製造業 周南市
	3月は大型鋼構造物を取り扱う企業、自動車産業の下請け企業にとっては、これまでにない需要低下の状態。7月以降に期待している様子。復興需要の影響等での材料費の値上がり等は、いずれも無い。	一般機械器具製造業 防府市
	売上高は若干増加したものの、収益状況等は特に変化無し。	一般機械器具製造業 宇部市
	海外（特にタイ国）向けの工作機械受注が回復傾向にある。	
	3次補正が具体的になったので、宮城方面から水産加工機械製造の受注がある。	一般機械器具製造業 下関市
	3月度の受注・生産は、年度末又は四半期決算等などの影響もあるのか、設備操業度は一時的に上昇している。金型の価格は相変わらず低価格化・短納期化が進んでおり、いかに製造原価を下げ、短納期で対応するかが不可欠となっている。近年、金型の海外調達・海外現地調達が増え国内需要が減少し、国内絶対量の減少が見られる。但し、精密金型においては、やはり国内生産がまだ存在していると思われる。当面4月以降秋口までの動向が不安・不透明である。先月同様に東日本大震災の影響による受注増加に対応する為に休日返上で稼働している漁業関連品の製品を扱っている組合員もある。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	仕事量が少ない。	船舶製造・修理業
	車両輸送機部門では明るい材料が見当たらない。その上、来月は一部操業度を落とす部門もあり厳しい経営状況に入っている。他方、プラント部門に規模は小さいが作業量の増加が見込まれ、少し明るい状況にある。	鉄道車両・同部品製造業

卸売業	好転のきざし無く、低迷状況の中での現状維持が精一杯といったところ。	各種商品卸売業 柳井市
	全般的に引き続き厳しい状況下にあり、特に変化はありません。物流関係では燃料費の増加で収益が悪化。今後は原油価格の上昇により、個人消費の減速が懸念される。	各種商品卸売業 周南市
	先行き不透明で、不況感は、未だにぬぐえず、現状を維持するのが精一杯という事業所がほとんどの様子。原油価格の高騰により、経費（輸送コスト）も、ますます増大傾向で、それに対する経費削減等がこれからの課題となっている。	各種商品卸売業 防府市
	中小企業の総合型厚生年金基金の運用先での年金消失問題等に加え、急激な燃料の高騰に打つ手がない。	各種商品卸売業 山口市
	各業種とも前年対比売上が減少しており、特に建設関係は公共工事の減少に伴い今後の対策に苦慮している。又、ガソリン価格が前年対比、1ℓ当たり約20円上昇しており配送経費の高騰とともに固定経費の削減も限界となっている。	各種商品卸売業 下関市
小売業	地域経済は、先行不透明な為に停滞気味。業界は、3月は決算月という事で少し活発で、4月1日大手化粧品メーカーのネット販売開始のため、「ネット会員」登録の業務で大忙しである。	化粧品小売業
	3月は移動の季節なので、買取が増えればと期待していたが、なかなか現実には厳しい。家具等の大物は量販店の低価格物が主流になり、取り扱いをしない組合員もではじめるほどで、依然として厳しい状況は続いている。	中古品小売業
	当月も下旬まで寒い日が続き、春物が不振である。震災のあった前年とほぼ、同レベルの取り扱いであり、消費の低迷から脱却できないまま、23年度が終わろうとしている。	各種商品小売業 山口市
	県内最大規模のホームセンターのオープニングセールが3月24日より、26日まで行われ、当SCでも全体的なセールを実施した結果、売上についてはほぼ前年並みを維持できたが、来店客数については、かなり前年を下回る結果となっている。	各種商品小売業 長門市
商店街	相変わらず来街者数も増えず、商店街内スーパーも撤退の意向が固まった様子。ドラッグストアも既に6店舗あるが、今秋、郊外大型店の近くにドラッグストアのオープン予定で、近々着工する。設備投資が低くて済む地方都市（人口4万～5万）への大型店の出店は、益々地域事業者を苦しめている。	萩市

	<p>年度末、閉店意向の店が3店舗。新たな集客施設として、高齢者対応フィットネスクラブ事業を申請した。恒例の春の売り出しと震災のイベントを重ねて実施し、前年比105%の桜まつりの抽選券の発券状況となった。3次補正でのお陰で、今まで山口市で実施したことが無い3種（わんこそば・津軽三味線・さんま焼き）の震災支援イベントを、たまたま企画することが出来た。「窮すれば通ず」の言葉通り、新規イベントが出来たことで、遠く離れた「東北と山口の地域間の交流」も生まれた。</p>	山口市
サービス業	<p>3月は卒業式のハカマ等の着付けもあり、少しは増益になったように思うが、社会の景気の悪さに美容業も苦しんでいる。</p>	美容業
	<p>長引く、デフレで組合員が自分を守ることに精一杯。今後の社会環境も同じ状況が続くと思われ、今月、来月と急に変化があるとは思えない。</p>	理容業
	<p>ハイブリッド（HV）や電気自動車（EV）に代表される次世代自動車の普及が加速している。高度な電子制御技術が投入されている自動車の点検・整備に対応する為、当組合では新技術教育を最重要課題として取り組むこととしている。</p>	自動車整備業
	<p>新車販売の増加により、ディーラー向け業務が大幅改善。ドライブレコーダーなど安全対策機器の販売、取付が伸びる。</p>	
	<p>コンピュータシステムも「所有から利用へ」変化し、いままでの受託ビジネスがどんどん減り、どんどん厳しい状況になってきている。技術者派遣においても、かなりきびしい単価で対応せざるをえず、こちらも案件が少なくなっている。今後はシステム開発会社の統廃合などが進んでいくと思われる。あきらめることなく、新しいビジネスモデルの模索をしていかなければならない。</p>	情報サービス業 宇部市
	<p>業況は徐々に回復していると思われるが、新規のシステム開発よりも代替需要が増えてきている。今まで設備投資を控えてきた企業が徐々にシステムの老朽化に耐えられなくなってきたようである。</p>	情報サービス業 萩市
	<p>震災から1年。前向きにと努めてきたが、業況に大きな変化は無い。</p>	屋外広告業

	<p>1 業界内の温度差がますます顕著になった。東日本大震災 1 周年を迎え多少の復興回帰を期待したが、大方の意見は最悪という回答があった。年明け以降不況の深刻度はますます深刻で、3 月は異動需要に期待したが年々送別会の規模が縮小しているとの情報もある。新年会同様、歓迎会も死語になりつつあるという指摘もある。良いところと悪いところの 2 極化はますます顕著になっている。行政需要が減った。学生需要も減少している。民間需要は確実に無くなっている。歓送迎会は、企業ぐるみが無く、部、課のセクションも少なくなり、職場送別会は無くなったとの声も聞かれる。個人的に細々とやっているに過ぎない。県下全域街に勢い処か元気がない。</p> <p>2 ガソリンの値上げが追い打ちをかけている。世界情勢の緊迫化による、ガソリン価格の上昇は止まらない。商品価格に転価できる店舗は生き残れるが、転価にチャレンジする前に息が切れる。</p> <p>3 政治責任だ。やるべきことをやらない政府与党はどうすれば良いのでしょうか。給料の減額は必至だ。収入の無いまま赤字予算を組むことは許されない。ここは早いこと身を切り、無駄を徹底して省き、なけなしの可処分所得を生み出す努力が必要。</p>	飲食業
	<p>昨年の 3 月は、東日本大震災の影響で 3 / 1 1 以降、キャンセルが相次ぎ売上が減ったが、本年は昨年よりはアップし、一昨年並みの見込み。</p>	旅館業 山口市
	<p>全体としては、前年同月比で 2 % の客数増加となったが、組合員の中で客数が伸びた宿と大幅に減少した宿がある。中には 5 0 % もの減少の組合員もみられ、近く組合脱退の見込み。</p>	旅館業 萩市
	<p>昨年に比べ売上はやや増加したが、価格は相変わらず低価格である。桜の季節となり、観光バスはよく動いており、宿泊者も少しずつ増え、春休み効果でお子様連れの家族旅行が好調。お土産の購買が増え、歓送迎会も復活し始めた。明るい材料も見えはじめ、今後に期待をするが、冷え込んだ景気はまだまだ緩和しそうにない。</p>	旅館業 下関市
建設業	<p>3 月に入り、急激に仕事量が減った。ここに来て、営業力のある会社と、そうでない会社の差が出てきている。それにしても、見積もり自体の引き合いも少なく、大変な状況である。</p>	鉄骨工事業
	<p>中電への工事申請 2 月 3 0 1 件 (当支部分 2 2 9 件) 前年同月 2 7 2 件 (同 1 8 9 件)。太陽光発電への申請 5 6 件、オール電化申請 3 7 件 (前年は太陽光 2 4 件、オール電化 3 3 件)。LED 街路灯への切替・新設申請</p>	電気工事業

	<p>は26件。当初、太陽光買取価格は42円/KWhで3月末までとなっていたため、申請が大幅増加した。その後、6月まで延長されたが、買取価格は現在不明である。受注状況は順調な様子。</p>	
	<p>「建設業における社会保険未加入問題への対策について」(国土交通省)の研修会を左官、鳶、鉄筋の組合員に対し実施する予定。</p>	左官工事業
	<p>愛宕山の売却の調印が行われるということで、今後に期待する。</p>	土木工事業 岩国市
	<p>公共事業はこの時期、来年度に繰越となる中型工事の発注が出ていたが、本年度はほとんどなく、小さな災害復旧事業の発注のみとなっている。住宅減税の為か、一戸建住宅の建築が少しずつ増加の傾向にある。</p>	土木工事業 柳井市
	<p>3月の受注高は、対前年同月比66%。今年度の累計は、対前年比71%。</p>	土木工事業 萩市
運輸業	<p>輸送関係は東日本大震災後の輸送量は低迷し、国内需要の不振は状況以外に国内企業の海外流出によるものも一因とみられる。輸出関連輸送量はやや上向きにより前年対比約18%の増。燃料価格のジリ高は、中小企業にとっては経営圧迫の度が高く、倒産寸前の状態と危惧される運輸業者がいるとの情報がある現況。油関係は3.2円の値上げ。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>ギリシャ問題も一服、米国の景気も回復に期待、それに伴う円安傾向、株価上昇等々により日本経済も日差しが見えつつもあるように思えるが、実感には遠く及ばないのが現状。燃料価格は高止まりから高騰の兆しにあり、燃料費は前月に比べ9円/ℓ程度の値上げ要請が来ている。景気回復に伴う負の部分(燃料費コスト等)のみが実感としてある。震災の影響を受けた昨年に比べれば、稼働状況は当然よくはなっているが、景気が良いからでは決してない。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>非常に荷動きの悪い状態が続いている。以前の製造業は期末にあたる3月にいわゆる「押し込み」と称して、まだ顧客が買ったとは言わないものを取りあえず出荷した形にして、その期の業績が伸びたような方法を取っていた時期もあった。我々運送業もその恩恵で3月は割と輸送量も確保できたのだが、そういった方法も今ではすっかり姿が消えてしまった。業界の景況は、周南地区は多少良いとのことだが、宇部・小野田地区は悪い。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>一番の不安材料である燃料の値上がりは、3月中旬より2度値上がり、3月分軽油価格は、10当たり：一般SS価格118～124円、当組合の共同購入価格は10当たり：インタンク（タンクローリー配送の組合備蓄分）価格101円、SS価格104～110円であるが、油業者の意見では上昇機運であり、今後の値上げも確実と思う。荷動きも悪く、今期決算はギリギリの状況。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 下関市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比+2.1%（2月1日～3月20日分）。2月1日～29日分は+5.1%と増加。うるう年で1日多かった事が大きいですが、1日当たりの金額も+1.4%となった。しかし、3月1日～20日分についてはマイナス2.2%と減少。昨年は震災後の諸行事自粛で減少したが、今回は地域経済の慢性的な景気悪化が原因と思われ、この回復は容易でないように思われる。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、イラン問題等でブタンやプロパンのCPが2月に続き3月分は大幅に急騰した。タクシー会社の燃料購入単価も過去最高となり、収益状況をより厳しいものになっている。消費税増税の機運が高まっているが、現在の景気状況では、増税分の転嫁ができない企業、納税できない企業が多く発生すると思われ、今後ますます国内景気が悪化すると懸念される。大手工場の事故後の復旧等、新たな事業が早く開始される事が切望される。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
	<p>荷役の取り扱い量等、数字的な報告は10日頃受けるが、先月に続き、小野田港の荷動き等の感触は、化学肥料等の出荷など季節的製品が、対前月比で若干の取引の伸びがある様子。震災復興による需要等も当港では今のところ感じられない。</p>	<p>港湾運送業</p>